

「これ、脳みそかな」小4年藤原海里君(9)「うわ、目玉が取れた」。は「魚の内臓はどこに何やら穏やかならぬ発言が飛び交う。5日につたから勉強になった市立図書館・中央公民館で開かれた「煮干しの解剖は、市立図書館・中央公民館の解剖」の場面。子どもたちは体長8センチほどの干からびたカタクチイワシを頭から順に「手術」する。頭を縦半分にばかっと開くと

たまの夏スポド再発見

真ん中に薄茶色の脳、えらのそばに黒い心臓を発見。ピンセットでそっとつまみ、食い入るように見つめる。

「肝臓や胃を水に浸して顕微鏡で見ると、魚が何を食べたか分る。そんな研究も面白いね。講師を務める玉野高の藤田学教諭(52)の声を聞き逃すまいと、参加した親子の表情は真剣そのもの。玉

③ 市立図書館・中央公民館



ピンセットで煮干しを解剖する小学生

同館では今月、子ども向けの講座が盛りだくさん。ステンドグラスや畳べりのブローチを作る「ワークショップフェスタ」(11、12日午前10時～午後4時)、職員らが自由研究の調べ物を手伝う「調べ学習おうえん隊」(12、19日午前10時半～午後4時)、天井からつるす「モビール」を作る工作教室(26日午後1時～4時)と続く。

図書館長で中央公民館総括責任者の正子敦司さん(53)は「自由研究に関する本や読書感想文にお薦めの本のコーナーもあり、親子で過ごすのに最適」と話す。

モビールの工作教室は予約が必要で先着20人。ワークショップフェスタは、作る物に応じて300～3千円の手材料費が必要。調べ学習おうえん隊は無料で事前申し込み不要。

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。

子ども向けの講座多彩

(近藤哲也)